千刈狸の呟き

～ カンボジア旅行 ～

蒼　狸

先日、４泊５日のカンボジア旅行に出かけました。秋田空港から羽田、バンコクを経由しカンボジアのシェムリアップから入国しました。午前９時に秋田を出発して現地到着は午後７時でした。空港でビザを取得し、顔写真と指紋を登録して入国、クメール語が公用語です。

世界遺産のアンコールワットとアンコールトムを訪問。それぞれヒンズー教、仏教の施設です。「乳海攪拌による不老不死の甘露の出現」など想像を超えた神話が、石の回廊に彫りこまれていました。これらの規模の大きさと芸術性に畏敬の念を持ちました。また、そこに祀られている仏像は盗掘され殆ど全て頭部がなく、それらは外国の博物館等にあると聞きました。

ハプニング１　シェムリアップから目的地へ移動のバス中で、急に腹痛と下痢をもよおしました。「トイレで止めて下さい」「トイレはもう30分走ったら使えるかもしれません」「我慢が出来そうにないので途中どこかの家でトイレを使わせて頂けませんか」「この辺の家にはトイレはありません」とのことでした。やっと辿り着いたトイレは、屋外の小屋に便器が置いてある程度のものでした。その後も腹痛が続き、バス旅行はそこであきらめ未開の地で途中下車しました。ガイドに彼の知人の車を手配してもらい助けてもらいました。

ガ　イ　ド　東南アジアならどこの国でも、日本語が上手な現地ガイドと専用車を手配する旅行社があります。費用はガイドと専用車でおよそ１日80～100ドルです。今回も日本でインターネット予約を行い、現地ホテルのロビーまでガイドに迎えに来てもらいました。

感心な人々　訪問中３名のカンボジア人に感心しました。１人目は９才の時にポルポトに両親を奪われたガイドです。彼はその後国境の難民キャンプで10年間一人ぼっちだったそうです。両親がいない孤独なキャンプで日本語を学び救われる事になりました。現在日本語を生かして自ら旅行社を開業し成功しています。２人目もガイドです。30才代の彼は現地の日本語教室で勉強したそうです。完璧な敬語を話すことができ驚かされました。公式日本語コンテストで審査員特別賞を受賞し、２週間の日本研修旅行を授与され、念願の初めての日本訪問を果たしたそうです。それが彼の誇りとのことでした。３人目は、ホテルレストランの若い責任者です。懸命に英語で声をかけてくれました。コーヒーの御代りは、わざわざ新たに入れ直して持って来てくれました。きっと外国の事を知っているこれら３人のカンボジア人の心の中は、自国を発展させたいという気持ちでいっぱいに違いない、話をしていてそれが自然に伝わって来ました。

生　　活　カンボジアは生活基盤、公衆衛生、産業構造等すべてが未完成です。現在の産業といえば農業と観光だけです。一家の主夫の月給は、500ドルあれば暮らせるそうです。多くの発展途上国で起こるそうですが、外国からの支援の半分が関係者の私腹になってしまうとの事でした。

ハプニング２　帰りの飛行機は定刻で飛んできませんでした。乗り継ぎ便のバンコクへの到着時刻が遅くなり、また乗り継ぎ時間がかかるため（ゲートまで１㎞も歩く場合もある）、帰国便には搭乗できないだろうという事になりました。電話で日本に臨時休診にする旨を連絡し、別ルートで、中国広州を経由して24時間もかかり帰国しました。海外ではタイトな計画は計画倒れになるという教訓になりました。

ま　と　め　全てがまだまだ貧しく混沌としている社会環境の中で、志ある人々が自国を造る気概を持ち励んでいる、そんな国がカンボジアです。この国を私はとても好きになりました。福沢諭吉曰く「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず、されど学ぶと学ばざるとに由り人々の有様に明らかな相違を生む。」この言葉が示す様に、前述の３人は独自に学び、身を興しました。学ぶ場が整っていればこの国の発展は加速するだろうと思いました。今最も必要なのは教育の場の整備だろうと思いました。そして自分は人口減などのネガティブな雰囲気に捕らわれていられないと、カンボジアの若者達の姿を思い出しております。もっと色々学ばねば、、、。

【発行所】一般社団法人 由利本荘医師会（毎月１回発行）　【医師会HP】http://honyui.jp/
由利本荘市水林456-4 TEL0184㉒4085